

兵庫・加都遺跡



(但馬竹田)

加都遺跡は、兵庫県北部の朝来郡和田山町の南部、円山川が形成した町内最大の流域平野の右岸に位置する。当地は、「加都千石」

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

鎌倉時代前期(一二一三世紀)

- 1 所在地 兵庫県朝来郡和田山町加都・市御堂
- 2 調査期間 一九九八年度調査 一九九八年(平10)六月～一九九九年二月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 西口圭介・岸本一宏・松野健児・甲斐昭光
井本有二・池田征弘・戸田真美子
- 5 遺跡の種類 集落跡・水田跡・道路跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代前期～後期(四～六世紀)、奈良時代後期～平安時代前期(八～九世紀)、平安時代後期～鎌倉時代前期(一二一三世紀)

と通称される、整然とした南北方位の条里地割が広範囲にわたって遺存する田園地帯であった。

この加都平野の中央部に播但連絡道路北伸事業、北近畿豊岡自動車道建設事業に伴うインターチェンジが建設されるのに先立って、一九九七・九八年度に約四六〇〇㎡の発掘調査を行なった。その結果、古代末に形成されたであろう完新世段丘上から、一〇〇棟以上の竪穴住居などからなる古墳時代の集落と、それに近接する水田、律令期の計画的な直線古道、約六〇棟の掘立柱建物などからなる中世の集落などが検出された。

今回紹介する木簡は、古墳時代以降に集落が営まれる微高地の南側に広がる低湿地から出土したものである。三点のうち(1)は、新水北B地区の六世紀後半～九世紀の水田土壌層から、(2)(3)は宮ヶ田C地区の古墳時代～中世以前の水田畦畔から、それぞれ出土した。

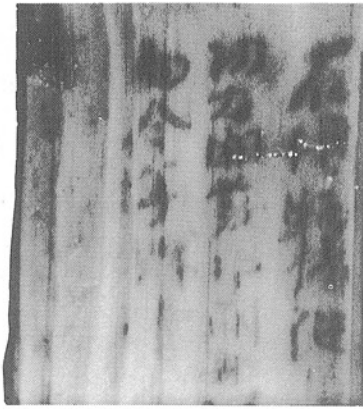
木簡(1)が出土した水田土壌(Ia層)は、褐色腐植質シルトで、六世紀後半～九世紀の土器が含まれていたが、畦畔などを面的に検出することはできなかった。その上層には中世の土器を包含する水田土壌があり、Ia層下層には洪水砂を挟んで六世紀前半の水田面が広がっており、畦畔などを検出できた。なお、畦畔では建築部材・用具部材・農具などを転用して補強材にしている。

(2)(3)は、古墳時代後期～中世以前に利用されていた水田畦畔中およびその近接地から出土した。この畦畔の補強のために用いられた

る。この他に、九六年度の確認調査で朝来郡山口里からの荷札が出土していること（本誌第二〇号）を考えあわせれば、近隣に古代の官衙的な遺跡が存在することも想定できる。

なお、木簡の釈読にあたっては、奈良国立文化財研究所の渡辺晃宏・山下信一郎氏のご教示を得た。

（岸本一宏・甲斐昭光）



(3) 部分



(3)



(2) 表冒頭部

木簡研究 第一九号

巻頭言

町田 章

一九九六年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡 藤原宮跡 恭仁宮跡 長岡京跡 平安京跡
左京八条三坊十四町（八条院町） 末窯跡群 大坂城跡 広島藩大坂蔵屋
敷跡 樟葉野田西遺跡 三条九ノ坪遺跡 大物遺跡 深田遺跡 安倉南
遺跡 明石城跡坤櫓 明石城武家屋敷跡 袴狭遺跡 印場城跡 角江遺
跡 御殿・二之宮遺跡 川合遺跡志保田地区 北条小町邸跡 伊興遺跡
丸の内三丁目遺跡 汐留遺跡 江戸城外堀跡牛込御門外橋詰 尾張藩上
屋敷跡遺跡 青山学院構内遺跡 岡部条里遺跡 上山神社遺跡 湯ノ部
遺跡 観音寺城下町遺跡 小谷城跡 高山城三之丸堀跡 松本城三の丸
跡土居尻 松本城下町跡伊勢町 前橋城遺跡 大猿田遺跡 根岸遺跡
泉平館跡 山王遺跡 舟場遺跡 無量光院跡 志羅山遺跡 後田遺跡
亀ヶ崎城跡 宮ノ下遺跡 上高田遺跡 大楯遺跡 弘田柵跡 長田南遺
跡 金石本町遺跡 田尻遺跡 大坪遺跡 舞臺遺跡 馬寄遺跡 下町・
坊城遺跡 新発田城跡 目久美遺跡 天神遺跡 三田谷I遺跡 鴻の巣
東遺跡 吉川元春館跡 長登銅山跡 飛田坂本遺跡 博多遺跡群 香椎
B遺跡 鞠智城跡 前田遺跡 那覇港周辺遺跡群旧東村地区
一九七七年以前出土の木簡（一九）
美作国府跡

韓国出土の木簡について

李 成市

史料紹介 琉球の木簡二題

山里 純一

書評 山里純一著『沖繩の魔除けとまじない―フーフダ（符札）の研究―』

高島 英之

書評 東野治之著『長屋王家木簡の研究』

鶴見 泰寿

彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円